

腸内細菌と造血応答の関連に基づいた炎症性腸疾患の治療法の開発

特定事業教員(特別招聘教授)・滝澤 仁

国際先端医学研究機構 (IRCMS) 幹細胞ストレス学分野

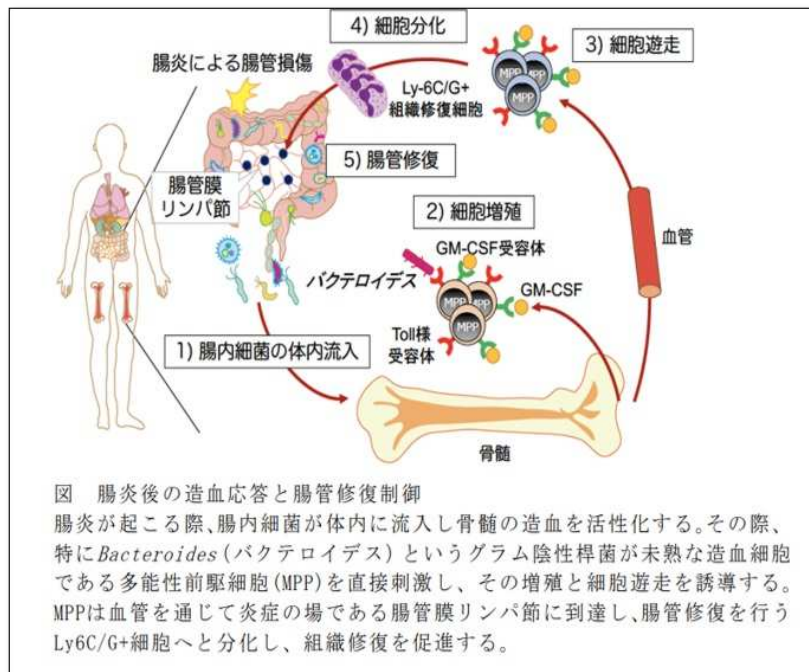
▶ 研究内容

【背景・目的】

腸内細菌由来の物質が免疫細胞の起源となる造血細胞の増殖刺激となることが知られている。一方で、腸内細菌が様々な疾患に関与することが知られているが、炎症性腸疾患との関連は以外にも全く明らかになっていない。

【研究概要】

腸内細菌シグナルが造血応答に与える影響を明らかにし、IBDの新しい治療戦略の提案をIBDマウスモデルとIBD患者サンプルを用いて検討する。



本学プレスリリースから引用

腸内細菌由来の刺激により造血応答が活性化し、腸の付近に造血幹細胞及び腸管修復細胞が集積する。その結果、腸炎の増悪が抑制された。

▶ 提供できる技術

- ・腸炎で誘導される腸管修復細胞を用いたIBDに対する細胞医療への応用
- ・腸管修復細胞を誘導する腸内細菌由来成分のIBD治療用薬剤への応用

▶ 参考資料

メディア: 熊本大・KISTEC、腸炎を治す腸内細菌を発見 日経バイオテク

▶ 関連リンク

論文(<http://doi.org/10.15252/emboj.2022110712>)

▶ キーワード

IBD 造血幹細胞 腸内細菌 細胞医療 抗体医薬 医歯薬学領域 基礎医学 免疫学

《ご連絡先》 コーディネータ 日高 悠希 TEL 096-342-3246 FAX:096-342-3246 mail:y-hitaka@jimu.kumamoto-u.ac.jp